

年間行事

一、大晦日 二十四時～二時

一、日本橋七福神 元旦より五日  
初詣

一、初恵比寿祭 一月二十日

一、節分祭 二月三日

一、宝田恵比寿神社大祭 十月十九日・二十日



十月十九日・二十日 両日

べったら市と

恵比寿講



宝田恵比寿神社  
べったら市保存会

社務所 中央区日本橋大伝馬町二一十六

電話 〇三三六六四一五六七

〇九〇一四六七四一七〇七一

# 宝田神社 恵比寿神

## 御縁起と大伝馬町の由来

宝田神社は慶長十一年の昔四百十余年前、江戸城外宝田村の鎮守様でありました。徳川家康公が江戸城拡張により宝田、祝田、千代田の三ヶ村（現在皇居内楓山付近）の転居を命ぜられましたので、馬込勘解由と云う人が宝田村の鎮守様を奉安申し上げ、住民を引率して此の地に集団移転をしたのであります。

馬込勘解由と云う人は家康公が入府の時、三河の国から随行して、此の大業を成し遂げられた功に依り、徳川家繁栄御祈念の恵比寿様を授け賜ったので、平穏守護の御神体として宝田神社に御安置申し上げたのが今日に至ったのであります。

作者は鎌倉時代の名匠運慶の作と伝えられます。

其の後村民の生活は金銀為替、駅伝、水陸運輸、それ〴〵重要な役を賜り、馬込勘解由は地主となつて、三伝馬取締役に出世し、御役名に因んで大伝馬町の町名を賜つて、伊勢・駿河・遠江・美濃・尾張等、家康公ゆかりの国々より商人を呼び集めて、あらゆる物資の集散地として大江戸開発と商売発祥の地として大変賑つたのであります。

現在も周辺の老舗、大小商社が軒を並べて今尚盛んな取引が続いて居ります。宝田恵比寿神は商売繁昌、家族繁栄、火防の守護神として、崇敬者は広く関東一円に及び毎年十月十九日の「べつたら市」二十日の恵比寿神祭が両日に亘り盛大に執り行われます。べつたら市は「年また新たな市」今年も年末が近づきお正月を迎える心構えをする商人にとって大切な年中行事として老舗は現在でも恵比寿講をお祝いして居るのであります。又若者により浅漬大根（べつたら）を混雑を利用し、参詣の婦人にべつたらだーべつたらだーと呼びながら着物の袖につけ婦人たちをからかったことから、べつたららの呼名になったと伝えられております。

